白岩捕虜収容所

麦川小学校の前の道を田代方面にしばらく行くと、白岩地区に出ます。集落の間を抜け、ぽっかり平地が広がる辺りが、かつて捕虜収容所のあった場所です。今では背丈ほどの草が広がる荒地となっていますが、その中にここがかつて収容所であったことを示す小さな碑が立っています。

昭和１７年１１月、第２次世界大戦が泥沼化し、炭坑に人手不足が生じたことから設けられたこの収容所には、アメリカ人捕虜３００人、イギリス人捕虜１７７人を収容し、彼らを炭坑の仕事に従事させました。

収容所の開設当初は。担当者の捕虜への扱いもよく、食事や休息も十分に与えていましたが、戦局が不利になり、本土空襲が激しくなってくると、捕虜に対する扱いが粗雑になり、暴行を行う者も出てきたようです。

これが原因となり、敗戦後に、そうしたことに関わった人たちや責任者が戦争犯罪を受け、収容所の初代・２代目の所長が絞首刑、他関係者１４名が巣鴨拘置所に送られました。

昭和２０年にはアメリカ軍がこの収容所上空から衣料や食料を入れたドラム缶を投下。

その１つが白岩の住宅に落ち、戦地から帰ってくるご主人を迎えに行こうとした若い主婦が命を落としたということです。

そして、同年の９月２０日には捕虜たちは、それぞれの国へと引きあげて行きました。

さて、時は流れて平成１３年３月。日本で捕虜となったイギリス兵２０数名がこの白岩の地を訪問し、当時の捕虜担当者との再会を果たす、ということがありました。この出来事は、当時の新聞にも大きく取り上げられたそうです。

なお、当時、日本各地に捕虜収容所は１００箇所以上あったということですが、その中で記念碑などをつくったところは白岩地区を含めて２箇所しかないということです。

【参考文献】
美祢地方歴史物語（瀬戸内物産出版部　１９９３年）
続・美祢市民戦争体験記「五十年目の証言」（五日の会編　１９９５年）
続々・美祢市民戦争体験記「六十年目の証言」
（五日の会編　２００５年）
美祢市史（美祢市史編集委員会編　１９８２年）